

ボランティアスキルアップ講習

みんなの生物多様性

2024年12月19日(木)

10:00~12:00

会場：日比谷公園 緑と水のカレッジ 講習室



講師

東京都市大学 環境学部 准教授
内田 圭 先生

私たちの歴史文化、暮らし深く関わる「生物多様性」について みんなで学びを深めました

東京都公園協会では、都立公園・庭園・霊園・水辺でボランティア活動を行っている皆さまを対象に、活動に必要な知識や技術を学ぶ機会として、定期的に「スキルアップ講習」を開催しています。

今回は、東京都市大学環境学部の内田 圭准教授を講師にお招きし、公園等のフィールドと密接に関わる「生物多様性」をキーワードとして、最新の研究成果を交えながらわかりやすく解説していただきました。参加者は40名。知っているようで知らなかった「生物多様性」の様々な側面について学ぶ貴重な機会になりました。

なぜ生物多様性を保全するのか

世界の大部分が人間の関与により作物生産地域（農地）や草原、草地地域であること、そしてそれは陸域の約50%にも及ぶという説明を受け、普段意識していなかった事実を引き込まれていきました。

次に、都市の生態系が生み出す機能としての生態系サービスについてわかりやすく解説してもらいました。例えば、果実ができるには、ハチなどの昆虫の媒介が不可欠であるように、食べ物は、生物多様性の結果であること、また文化や日々の暮らしの潤いに欠かせない美しい風景にも生物多様性が深く関わっていることを教えていただきました。最近の研究では、自然との関わり合いがうつ病やストレスなどの精神的健康にも深く関わっていることが明らかになってきているそうです。改めて生物多様性が直接私たちの生活に影響を与えていることのこと。

生物多様性をぐっと身近に感じ始めました！

都市の緑の成り立ちとは

地割図から再現された江戸中期～明治初期の西東京市の風景図を見せていただきました。それは屋敷森や雑木林、畑が带状にならぶ里山のようなものでした。現在の公園は、このような昔里山だった場所の一部であったり、市民の憩いの場として計画的に造られている公園であったりと、すべては人が関わり造り出した風景であることを学び、公園の歴史や成り立ちを理解することの大切さを教わりました。

緑の管理と生物多様性

多くの人間が都市に集中する一方、都市の生物多様性に関する研究の数は、(応用)生態学全体から見ると

7%しかないマイナー分野であることという話題にビックリ！

都市の生物多様性についてはまだまだ研究開拓の場がたくさんありそうです。それに関連して、興味深いデータを見せていただきました。日本全土のチョウの種の多様性と土地価格マップを重ねると、チョウの多様性が高い場所と地価が高い場所（人が多く住む場所）とが重なるというのです。昆虫は自然豊かな場所を好むというイメージでしたが、意外と人の手が入った場所を好んでいるという事実を知りました。

現在、伐採や下刈りなどの手入れが行われなくなった樹林地が増えていますが、そこには希少な植物は出てこないこと、また最近話題のナラ枯れも、適切な管理がされた樹林では、被害が少ないことなど緑の管理の重要性を痛感しました。

さいごに

内田先生の講義の後、今回の参加者から感想や質問を付箋に書いてもらい、それをもとにトークセッションを行いました。日々のボランティア活動の中で抱えている悩みや疑問が可視化され、活発な議論が交わされました。「これまで漠然としていた『生物多様性』について、なぜ大切なのかを考える意義や必要性の具体例が聞けてよかった」との声もあり、参加者それぞれが考える「生物多様性」にも変化があったようです。

内田先生からは「生物多様性を守っていくには、行政や企業だけではなく地域の意識変革が必要。みなさんの手で！」という言葉があり、一人ひとりが考え、それを周囲に広げていくことが大切だという気づきを得て、講習を終えました。